

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和5年3月30日

総数 32名(100%)

事業所名 (社福)この街福祉会 この街きつず学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	28	4	重症心身障害児童のいるクラスはコロナの為クラスで体操を行った。人数が多い場合危険もあるため考慮している。	・人数によって狭さを感じる時は、小人数での活動や他の部屋を利用する等工夫していきます。
	②	職員の配置数は適切である	25	7	・児童の安全を考え配置数を考慮されている。 ・乳幼児期、丁寧な支援が心身共に成長を促すため国の配置基準十分満たして配置している。	・国の基準を充足していますが、マンツーマン対応が必要な時など、活動に応じて環境整備を行っていきます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	30	2	・本人に合った写真カードを使用し視覚支援している。・一日のスケジュールがわかり易ホワイトボードに視覚支援している。・必要なら個別スケジュールや活動スペースを設けている。	・更にお子様それぞれが、わかり易く生活できるよう、環境を整えていきます。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	31	1	・療育後に毎日部屋やおモチャ等掃除、消毒を行っている。・活動に応じ環境設定がされている。	・更に工夫し、清潔に努めお子様に合わせた空間作りに努めます。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	32		カンファレンスを年2回行い、日々の成長の姿等によって、目標や手立てを変化させる話し合いが日常に行われていて良い。	毎日の朝会記録・毎週の職員会やクラス会等において情報共有できるように努めます。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	32		保護者等向け評価を行って、集計、公表、改善内容を共有して課題解決に向けて検討する。	課題を検討し、事業改善に努めています。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	32		自己評価を行っている。結果を踏まえて、改善に努めている。	法人当事業所のホームページに掲載しています。

	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	20	6	記載なし 6名 法人としては外部機関による第三者評価をどうするか検討した。	法人としては外部機関による第三者評価を現在予定していない。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	31	1	法人全体や事業所内で全職員参加の研修や事例検討を行っている。	より日常の療育に活かせる研修を心がけている。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	31	1	記載なし 1名 お子様の姿をよく観察し関係者全体で分析を行い計画している。	年2回個別支援計画を立て、発達の状況を共有して支援方針を確認します。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	31	1	記載なし 1名 ・必要なお子様と保護者様と KIDS 等つけていてわかり易い。	個別の発達に即したアセスメントツールを使用し発達支援方法を共有していきます。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	31	1	児童発達支援ガイドラインに沿い、個別支援計画作成。発達支援・家族支援・地域支援の項目から具体的な支援目標を立てている。	児童発達支援ガイドラインに沿った個別支援計画のフォームが作成されています。保護者様にもわかり易い内容と説明に努めます。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	32		計画に沿ったねらい、活動が出来ている。	療育後のクラス会で計画に沿った振り返りを行っています。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	32		週1回のクラス会で話し合い計画を立てている。	お子様たちの喜ぶ姿や経験してほしい目標を共有し立案に努めていきます。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	32		机上、運動の活動が偏らないよう工夫しているクラス内だけでは難しい活動も他クラスと合同で行い経験を増やしている。	お子様たち一人ひとりの興味関心を引き出せるよう、様々な工夫をして協働して活動を組み立てていきます。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	32		個別活動を保障しながら、集団活動にも参加できるように考慮されている。	個別も集団も計画を立てながら、バランスよく経験できるよう柔軟に対応していく。

⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3 2		ボードを用いながら体制を決め支援している。	朝会後にクラスの準備等行いながらその日の支援の役割分担を確認していく。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3 2		気になった点はその度情報を共有し意見交換ができています。	情報共有し気づいた点の改善に努めています。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3 2		支援計画、ねらいに沿い、日々のケース記録等を記録し、検証、改善が出来ている。	支援計画に沿った記録をすることで更に支援につなげていきます。
⑳	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	3 2		定期的なモニタリングを行い、成長に合わせ計画の見直しをしている。	達成できた目標は新しく次のステップの目標を作成していきます。
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3 1		管理者・児童発達管理責任者・主任・担任等を中心に関係機関との連携を図っている。	会議内容により適任者を選任参画していきます。
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3 1		保健師・子育て支援・就園就学支援等と連携している。	状況に応じて必要な関係機関と連携して行っています。
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3 2		適宜支援会議を行って、情報共有している。自立支援協議会 医療的ケア部会、諏訪市医療的ケア児入所支援委員会に所属して連携を図っている。	主治医・市町村・自立支援新協議会 医療的ケア部会等、地域で安心して暮らせるように連携していきます。
㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3 2		病院での主治医の診察に同行させて頂き、園内で安全に生活できるよう連携を図っている。	園内での支援内容の指示を直接頂きながら、顔の見える連携体制を整えていきます。
㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3 2		移行前に見に来て頂いたり、職員が付き添い保育園へ体験に行ったりし、移行後は訪問支援等により支援方法の共有を行っている。	保育園・学校への見学・体験に同行し、引継ぎや園で準備出来ることを行っていく。

	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	2	引継ぎシートや書面で行っている。 お子様の日常生活を見に来ていただく等、直に引き継いでいる。	両方にお互いが向うき、見学・体験等を行いスムーズな移行を図っていきます。	
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	0	1	記載なし 1名 コロナ前は他の施設での研修や見学を行っていた。管理者・児童発達支援管理責任者等、他施設との情報共有会議を行っていた。	研修・情報共有等を行い、研鑽を積み、支援の質を高めていきます。
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	7	5	コロナにより、集団での交流は難しい。年長児交流、就学、移行児童においては職員が付き添って体験、交流している。	感染状況をみながら、児童の地域保育園と交流できるよう努めていきます。
	②9	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	0	2	管理者・主任・副主任が出席している。	関係機関との連携に努めていきます。
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3	2		日々の連絡帳や送迎時、保護者付きの時に家庭と学園での姿を共有し理解しあえている。困っていること等その都度、相談に応じている。	定期的に懇談したり、適宜必要に応じて懇談したりするなど、共通理解を図っていきます。
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	2	6	2	記載なし 4名 送迎の際や懇談等いつでも必要に応じて機会を作り、ご家庭のかかわり方等の相談に対応している。	ペアレント・トレーニング等、家族支援のプログラムや研修を取り入れていきます。
保護者への説明	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	0		記載なし 2名 入園前の面接で行っている。	契約の際は、丁寧に説明をまいります。
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	3	2		年に2回個別支援計画を作成し、保護者様と丁寧な懇談を行い共通の認識を持てるよう努めている。	十分な時間をいただきながら、個別支援計画の実践と評価を共有し、ご家族と両輪でお子様たちを支えています。

責 任 等	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3 2		・日々の連絡帳や電話、個別懇談等で悩みや相談に対応している。 直接おいでいただきお話を聞きして支援している。必要に応じてご両親、祖父母様や関係機関もおいでいただいて支援の輪を広げ、役割分担している。・モニタリング等、定期的に行い助言、支援に努めている。	毎日親御さんやお子様との関わりを大切に、いつでも相談しやすい体制や雰囲気を作っていきます。子育ての大変さに寄り添い、家庭での困り感への手立てを一緒に考えていきます。
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催したりする等により、保護者同士の連携を支援している	3 1		記載なし 1名 行事等で機会は作っているが、コロナの状況により実施できない時もある。	保護者様同士仲良くなれるようなサポートをしています。
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	3 2		お声をかけながら、日頃の子育ての悩みを話せるよう信頼関係を築いている。連絡帳に書いていただいた課題についてはすぐ相談して対応している。	今後も迅速かつ適切な対応を心がけます。
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3 2		クラス便り、学園だより、メール配信等を通じ、活動状況、支援内容、感染状況など発信している。	出席日数に関わらず情報がいきわたるよう発信に努めます。
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	3 2		個人情報の取り扱いには注意している。	職員に周知し、適切に対処できるように努めます。
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3 2		写真カード、手話(ジェスチャー)、音など利用してコミュニケーションをとっている。	きめ細かな対応を心がけ、丁寧な対応を行っていきます。
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2 3	5	記載なし 4名 直接の交流は難しいが、ボランティア活動やお花を頂く等地域とのつながりは感じる。	コロナのため控えているが、地域に開かれた施設として交流に努めます。
非 常 時 等 の 対 応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3 2		それぞれマニュアルを作成している。月に一度様々な想定で避難訓練を実施している。	有事の際、役割分担をしっかりとできるように、普段からの訓練を怠らないようにします。
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3 2		火災、地震、風水害等それぞれに対応し避難訓練を行っている。	消防の方に、助言、ご指導を頂きながら行います。

④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3 2		毎年児童表を更新している。医療的ケアに関しては児の主治医と看護師と嘱託医との相談の上、マニュアルを作成し救急対応の確認を保護者と行っている。	安全安心に園生活ができるよう、看護師・担任と共に健康状態のチェックを行っていきます。
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3 2		一か月前に献立チェックをし（栄養士/保護者/担任）食材確認誤食のないよう、除去食専用の給食セットを用意。給食後の清掃等徹底している。除去対応が難しい場合弁当持参、別部屋で食べて頂き、月1～2回全員が食べられる給食の提供。	栄養士・看護師・担任を中心に情報共有し全職員に周知します。生活の中で注意している点も含めて、誰がクラスに入っても分かるように安全管理に努めます。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3 2		ケガやヒヤリハット等、速やかに（朝会や職員会等）共有している。	事業所内で速やかに共有し、再発防止に努めます。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3 1		記載なし1名 法人内に虐待防止委員会を設置し、法人全体や職員全員参加の研修を行っている。	事例検討等行い、普段の支援の振り返りの中で、虐待防止を進めています。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3 0	1	記載なし1名 法人内の虐待防止委員会の中で身体拘束についての研修を行っている。安全のために必要であれば保護者と相談の上、主治医の指示書に従うようになっている。	身体拘束について、具体的な研修を行って、情報共有していきます。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。